

会員会社紹介

株式会社ドーン

営業部
品川 真尚



株式会社ドーンは、故滝野秀一（2009年没）が1991年6月、国産地理情報システム（GIS）の研究開発型企業として、兵庫県神戸市に設立しました。1994年、国産GIS製品「GeoBaseVer1.1」をリリース。その後、1995年の阪神淡路大震災の復興事業を契機にGISが注目されると、先進的地方自治体や大企業においてGISが導入されるようになり、そして2001年、政府のIT基本戦略（後のe-japan戦略）の元、GISが本格普及期に移行していくと、弊社GIS製品も、地方自治体や電力・通信会社を中心に急速に導入されていきました。

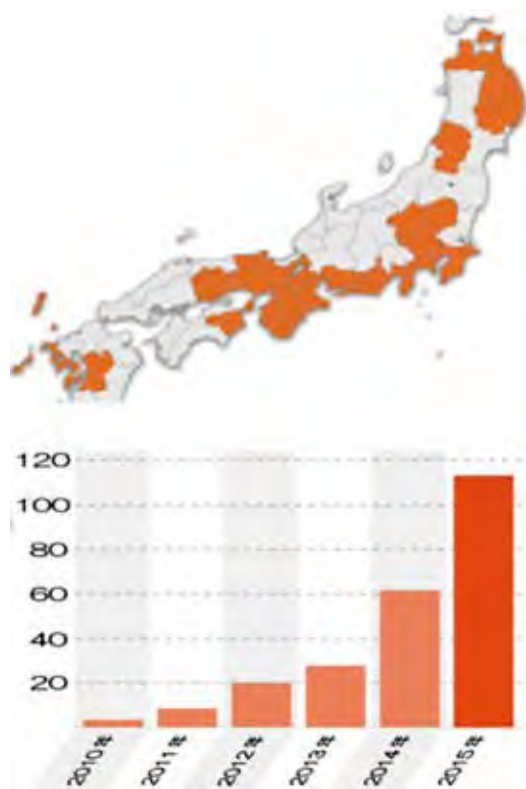
サービス開発の発端は、GoogleMaps日本語版がリリースされた2005年。弊社もGIS製品販売だけでなく、GISをクラウドで提供する事業モデルにシフトすることで、事業領域拡大を図って参りましたが、元々消防団体や警察組織に対して製品を提供していたこともあり、同団体に特化したソリューションを開発することは当然の流れでした。

そこで開発したのが、聴覚障害者向け緊急通報サービス「NET119」（開発当初は“Web119”）です。これまで、聴覚障害者は、119番や110番等の救急通報をする際に、正確な位置情報や状況を音声で伝達することが出来ず、通報時における部分的制約を余儀なくされていました。弊社NET119は、その部分的制約を解消すべく、位置情報と災害状況を“正確・迅速”に消防団体に通報可能にするソリューションとして開発し、2009年のリリースから現在まで全国113消防（管轄人口ベース約3200万人）に拡大しました。

現在、NET119は、2020年に向け、聴覚障害者

向け緊急通報サービスという位置付けから、外国人来訪者が日本国内で利用可能な、新しい緊急通報サービスとしての活用が期待されており、弊社もTTCにおいて、関係各社とアクセシビリティ SWGにて国内標準化仕様及び国際標準化にむけたディスカッションを重ねています。

今後も、標準化仕様への積極的な提言や、先進的な技術開発を推進し、ユニバーサルサービス化を目指し、関係各社と共に、同サービスの普及促進に努めて参ります。



NET119導入地域及び消防団体数の推移